

研究科長挨拶

大学院教育学研究科長

南風原 朝和

本センターは、学校教育の高度化を推進することを目的として、2006年に設置されました。初代センター長は市川伸一教授で、その後、秋田喜代美教授、根本彰教授がセンター長を務められ、2011年からは現センター長の小玉重夫教授のリーダーシップのもと、標記の目的の達成に向けて精力的に活動が展開されてきました。

本年度は、本年報の「学校教育高度化センターこの1年の活動」に記載されているように、小玉センター長を中心とした大型研究プロジェクト「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション」が実施されたほか、国際シンポジウム、公開シンポジウムが開催され、大学院生による公募型研究プロジェクトも実施されました。さらに、3名の外国人客員教授を迎え、国際的な研究交流が行われました。

このように、本センターが、教育学研究科および附属中等教育学校の教員の研究活動を束ねる中枢（センター）として、また、教育学研究科と全国の大学・学校・教育委員会等とを結びつける接点として、さらには国際交流の場として充実した活動を行ってきたことに、身内ながら心から敬意を表したいと思います。その一方、これらの活動を支えるセンターのスタッフが、専任は助教1名のみという現状については、たいへん心苦しく思っています。

東京大学では、全学的に学部教育の総合的改革が進められており、その中で学部の枠を超えた共通教育プログラムの展開が図られています。次代の学校教育の担い手を育てるための教職課程プログラムは、そうした共通教育プログラムの重要な要素です。全学の教員養成の中核部局である教育学研究科には、対象を大学院生まで広げた研究総合大学型の新しい教員養成システムの構築が求められており、そのためには、本センターの抜本的な拡充が必要であると考えています。

関係者の皆様には、今後とも、本センターの運営ならびに研究活動へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。